

のアルバム

防災おにぎりデー！！

毎月17日に「おにぎりを食べて防災を考えよう！」と活動されている市民グループ「防災おにぎり委員会」のメンバーが市役所を訪問しました。

▼5月2日 市役所

過去の災害による被災経験や避難生活を風化させないために後世に引き継ぎ、「食」への感謝を忘れないよう、おにぎりを食べながら語り合うという活動をされています。

当日は、かわいいドウタク君のおにぎりなどをいただきました。今は小さな活動でも、積極的に活動し様々な方面に輪を広げていきたいと意気込みを語っていました。



100歳おめでとう②

100歳の誕生日を迎えた下面隆郎さん(栄)を山仲市長がお祝いに訪問しました。

大正5年4月23日生まれの隆郎さんは、魚釣りと音楽が大好きです。カセットテープで音楽を聞きながらよく歌っているそうです。

昨年、ご家族で旅行され「蟹を食べ楽しかった。」と話されていました。

いつまでもお元気で。

▼4月27日 栄



100歳おめでとう①

100歳の誕生日を迎えた三久保善正さん(野洲)を山仲市長がお祝いに訪問しました。

大正5年5月8日生まれの善正さんを妻のひささんとご家族の皆さんでお祝いされていました。

市長の訪問に「ありがとうございます。」と感謝されていました。

ご夫婦でいつまでもお元気で

▼5月10日 野洲



歴史民俗博物館 ☎587-4410、Fax587-4413

北村季吟「源氏物語湖月抄」

北村季吟（1624～1705）は、野洲郡北村（現在の野洲市北）を故郷とし、江戸時代に俳人、歌人として活躍した人です。若き日の松尾芭蕉も季吟から教えを受けています。66歳の時、5代将軍徳川綱吉のもとで、幕府で和歌の指導にあたる初代の歌学方となります。晩年は江戸で過ごし、宝永2年（1705）6月15日、82歳でその生涯を閉じました。毎年、命日（現在は第二土曜日、今年は11日）には、野洲市北の句碑前で追悼法要が勤められ、自治会館で北村季吟顕彰会による俳句巻開と表彰式が行われます。

季吟には、俳人、歌人の顔に加えて、もう一つ大きな業績があります。それは古典文学の研究や普及です。源氏物語、伊勢物語、土佐日記、徒然草、枕草子、万葉集、百人一首をはじめ数多くの注釈書を出版しました。季吟は古典の講義も行っていましたが、本を手に入れば自習できるようになり、学問は地方にも広まりました。

なかでも、『源氏物語湖月抄』は代表作で、後世に読みつがれています。全60冊からなる大著で、版下も季吟の筆によるといわれています。表題は、紫式部が石山寺に参籠して中秋の明月が琵琶湖に映るのを眺め、『源氏物語』を著したとの伝説により命名されました。この本は、物語の原文に傍注（行間の注）と頭注（上段の注）を付け、本文と解説を同時に見ながら読むことができ、中学校や高校で手にする教科書のような形式です。江戸時代を通じ、また明治に入ってからも出版され続け、多くの人に愛読されたベストセラーとして知られます。江戸時代の人々にとっても、源氏物語はすでに古典文学の一つでした。古典を学ぶことが俳人、歌人としての教養を高め、言葉を豊かにすると説いたのです。6月4日から7月10日まで（月曜日休館）展示していますので、季吟の足跡にふれてみてください。

（博物館学芸員 行俊勉）



北村季吟『源氏物語湖月抄』巻一～三（当館蔵）



100歳おめでとう③

100歳の誕生日を迎えた三枝輝代さん（三上）を山仲市長がお祝いに訪問しました。

大正5年4月16日生まれの輝代さんは、趣味の俳句が楽しいと話され、漢字の練習などをして過ごされています。

輝代さんは、「市長の訪問をすごく楽しみにしていました。」とご家族が話されていました。

いつまでもお元気で。

▼4月22日 三上



サービス向上にご尽力

野洲市介護相談員の齋木久子さん（小篠原）が「介護相談・地域づくり連絡会」から永年活動功労者として表彰されました。

齋木さんは、平成18年1月から介護相談員として10年以上、介護サービスを利用する人と提供する事業者との橋渡し役として活動されています。サービスの疑問や不満・不安の解消を図りつつ質の向上に努められ、現在も活動中です。

▼3月18日 市役所

